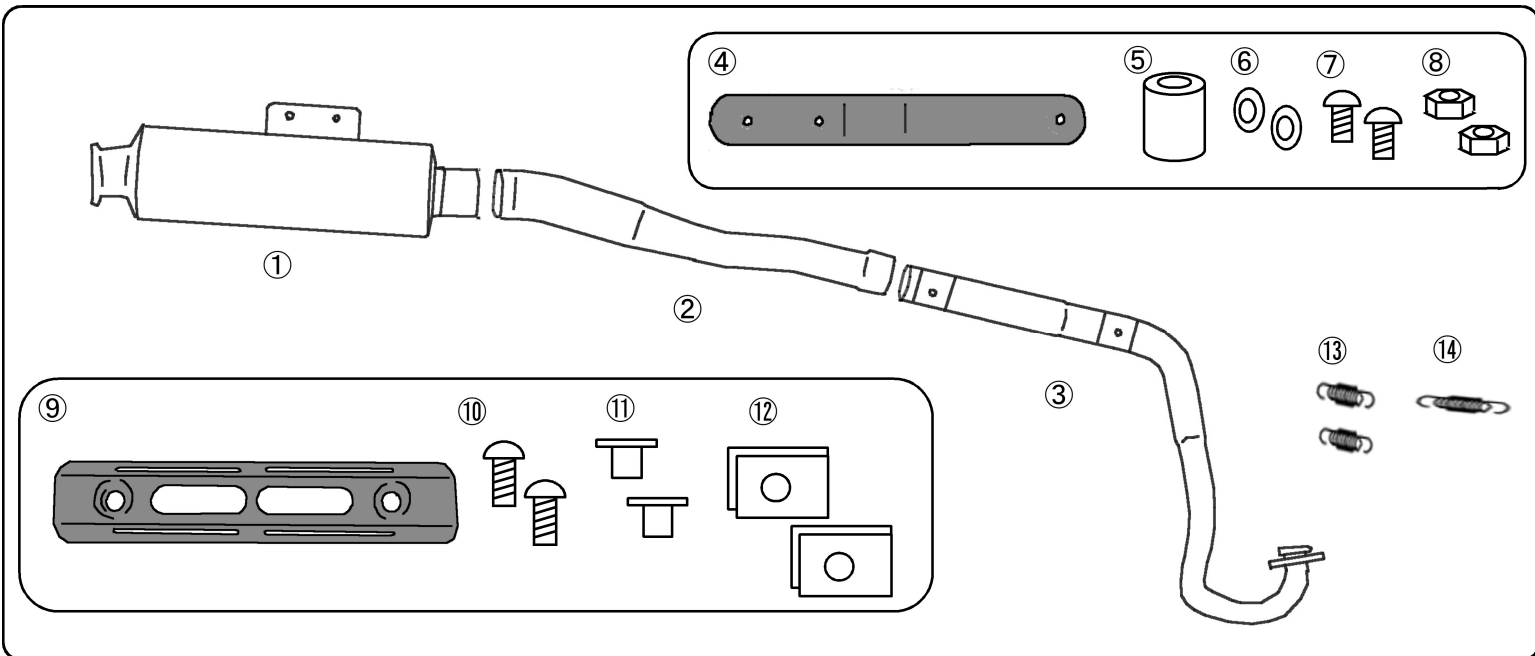


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、CT125 (2BJ-JA55)用となっております。その他の機種(車両型式)に関しては、取り付け確認及び法規適合等の確認を行っておりませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



①純正マフラーの取り外し

純正マフラーを取り外します。
マフラー及びその他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください。
取り外しの際の純正パーツの一部はマフラーを取り付ける際に使用しますので無くさない様ご注意下さい。

②サイレンサーステーの取り付け

右リアショックの純正マフラー取り付け部に⑤カラーを挟んで純正ナットで④サイレンサーステーを共締め(仮留め)します。
ステーの向きは穴が2つ並んでいる側が外へオフセットされる向きです。

③マフラーの取り付け

1)エキゾーストパイプ・テールパイプの取り付け
③エキゾーストパイプをエンジンに取り付け(仮留め)、次に②テールパイプを取り付けて⑭スプリングを掛けます。
※エキゾーストガスケットはマフラー脱着毎の交換を推奨します。

2)サイレンサーの取り付け

②テールパイプに①サイレンサーを差し込み、⑥ワッシャ、⑦ボルト、⑧ナットを用いて④ステーに仮留めし、⑬スプリング(首振り)を掛けます。
(裏面図1参照)

3)本締め

車体各部との干渉がない事を確認し、必要があれば調整を行いながら仮留めした各部のボルト・ナットを本締めします。フランジが傾かない様、フランジナットは均等に締め込んで下さい。締め込み具合によりパイプの位置が動いて各部のクリアランスが変化する場合がありますので、注意しながら作業を行い必要があれば修正して下さい。

図番	品名	数量
①	サイレンサー	1
②	テールパイプ	1
③	エキゾーストパイプ	1
④	サイレンサーステー	1
⑤	アルミカラー	1
⑥	ワッシャーM6	2
⑦	ボタンボルトM6-15	2
⑧	ロックナットM6	2
⑨	ヒートガード	1
⑩	ボタンボルトM6-15	2
⑪	ツバ付きカラー	2
⑫	クリップナット	2
⑬	スプリング 首振り	2
⑭	スプリング STD	1

※スプリングを掛ける際はラジオペンチ等を使用するとスプリングに傷が入り、スプリングが折れる原因になります。
スプリングフック等の適正な工具を使用して作業する事をお勧めします
※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド(液体ガスケット)等を用いる事をお勧めします。

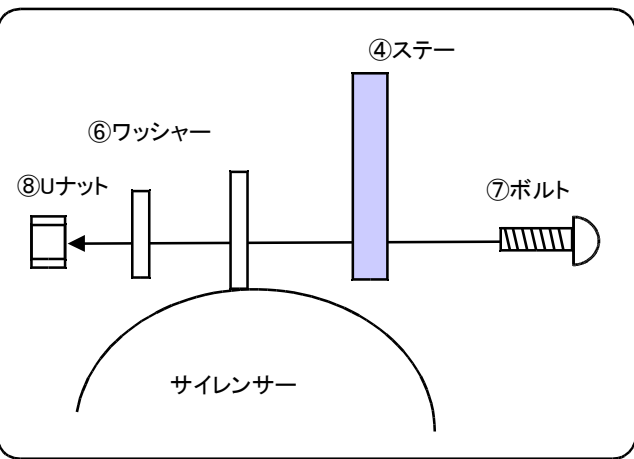


図1 (模式図の為、実際の部品とは形状が異なります)

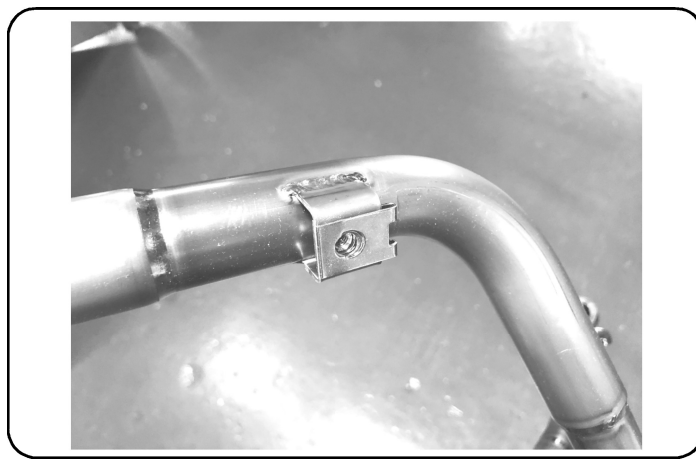


図2

④ヒートガードの取り付け

- ③エキゾーストパイプに⑫クリップナットを取り付けます。(図2参照)
- 純正ヒートガード(前側)からゴムブッシュを取り外し、
- ⑨ヒートガードに取り付けます。
- ⑪ツバ付きカラー、⑩ボルトを用いて⑨ヒートガードを
- ③エキゾーストパイプに取り付けます。(図3参照)

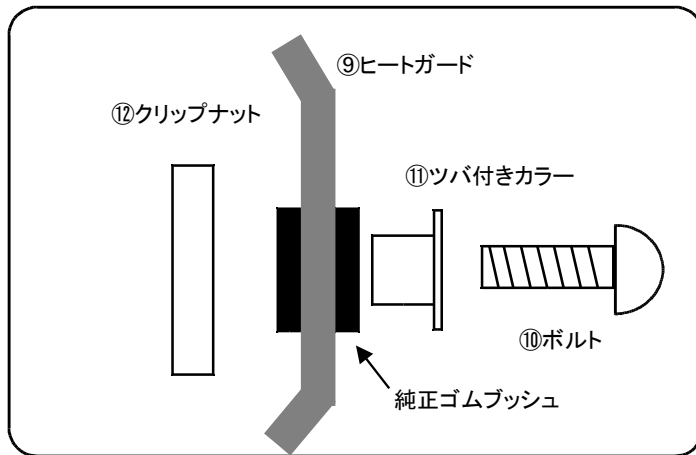


図3

⑤最終確認

以上でマフラー取り付け作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。マフラーが各部に干渉していない事を再度確認して下さい。

※エキパイに指の皮脂等が残ったまま熱が加わると、焼けムラの原因になります。十分脱脂を行って下さい。
 ※定期的にボルト・ナットの緩みが無い事を確認し、必要があれば増し締めを行ってください。

注意！

走行中及び走行後はマフラーが非常に高温になります。火傷・衣類/履物の損傷に十分ご注意下さい。
 二人乗り時は特にご注意下さい(一人乗り推奨)

- グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブラせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)
- グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。
- 走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。
- シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。
- 転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

NOJIMA ENGINEERING

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811

WEB: <http://www.nojima-japan.co.jp> MAIL: info@nojima-japan.co.jp